

平成30年度

第1回加賀市地域公共交通会議

第1回加賀市地域公共交通活性化・再生協議会

議事録

日時 平成30年6月20日(水)
午後2時～午後3時30分
場所 加賀市市民会館 第2会議室

平成 30 年度
第 1 回加賀市地域公共交通会議
第 1 回加賀市地域公共交通活性化・再生協議会

日 時 平成 30 年 6 月 20 日（水）
午後 2 時～午後 3 時 30 分
場 所 加賀市市民会館 第 2 会議室

1 開会

事務局

平成 30 年度第 1 回加賀市地域公共交通会議、第 1 回加賀市地域公共交通活性化・再生協議会を開催します。本日は、お忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。

2 新委員紹介

事務局

はじめに、委員の交代がありましたので、新しく委員になられた方を紹介いたします。

（新委員紹介）

新委員の皆さまの委嘱状については、お手元に配布させていただきましたので、ご確認をお願いします。交代のなかった委員の皆さまについては、名簿と席図にて紹介に代えさせていただきます。

3 会議成立報告

事務局

続きまして、会議の成立報告を申し上げます。

本日の会議の出欠状況については、2 名の委員が欠席ですが、過半数を超える出席となっておりますので、加賀市地域公共交通会議設置要綱第 7 条第 3 項及び加賀市地域公共交通活性化・再生協議会規約第 7 条第 3 項に基づき、本日の会議は成立していることを報告いたします。

4 会議設置の趣旨

事務局

次に、この会議の設置の趣旨について、説明いたします。

本会議は 2 つの会議を兼ねており、加賀市地域公共交通会議については、道路運送法及び同法施行規則を根拠とし、地域の実情に応じた適切な旅客運送の確保等に関して必要となる事項を協議するために設けられたものです。本市における、路線バス、タクシー等、地域交通の確保・維持等について、協議するための組織です。

加賀市地域公共交通活性化・再生協議会については、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律を根拠とし、本市における地域交通の確保・維持のために行う具体的な事業について、協議をするための組織です。

それでは議事に入りたいと思います。

なお、近藤会長においては、急用によりご欠席の連絡が入っています。そのため、本日の議長は、この会議の副会長であります山下副市長にお願いしたいと思います。

5 議事

・現在の地域交通体系について

副会長

議長を務めさせていただきます。

新しく委員になられた方もいらっしゃいますので、現在の加賀市の交通体系について、事務局から説明してください。

事務局

資料は1ページです。現在の地域交通体系を「KAGAあんしんネット」と呼んでいます。路線バスを中心とした「幹線ネットワーク」と、乗合タクシーを中心とした「面的ネットワーク」を組み合わせ、地域交通体系を形成しています。

まず、路線バスについてです。運行は、加賀温泉バス(株)です。「温泉山中線」は、山代温泉経由で、加賀温泉駅と山中温泉・栢野を結ぶ路線です。「山代大聖寺線」は、山代温泉経由で、山中温泉と大聖寺を結ぶ路線です。「吉崎線」は、大聖寺経由で、塩屋と加賀温泉駅を結ぶ路線です。「温泉大聖寺線」は、松が丘経由で、大聖寺と加賀温泉駅を結ぶ路線です。「温泉片山津線」は、片山津温泉と加賀温泉駅を結ぶ路線です。「温泉片山津線」は、一旦廃止となりましたが、平成22年11月から再度、運行を始めました。

続いて、キャンバスについてです。(株)まちづくり加賀が企画、日本海観光バス(株)が運行しています。観光客を中心に利用されている「海まわり線」と「山まわり線」、その他「小松空港線」と「動橋・橋立循環線」の4路線が運行されています。「動橋・橋立循環線」は、海側路線の廃止に伴い、片山津、湖北、金明、橋立地区から大聖寺方面の高校への通学手段として、平成27年4月から運行しています。

続いて、「のりあい号(乗合タクシー)」についてです。市内を3エリアと加賀温泉駅周辺の共通エリアに分けて運行しています。エリア1が錦城、橋立中学校下、エリア2が片山津、東和中学校下、エリア3が山代、山中中学校下で、各エリアと共通エリア間を運行しています。便数は平日8便、土日祝5便です。平成27年10月から実証運行を、加賀市医療センター開院に伴い翌年4月から本格運行を開始しました。

これら「幹線ネットワーク」と「面的ネットワーク」を組み合わせ「KAGAあんしんネット」を形成しています。

副会長

本市においては、平成28年4月に完成した「KAGAあんしんネット」により、市民の方々の日常の移動手段を確保しています。

委員の皆さまからのご質問、ご意見などはどうでしょうか。

(質問、意見なし)

・平成29年度 地域公共交通の利用状況について

副会長

続いて、平成29年度 地域公共交通の利用状況についてです。

事務局から説明してください。

事務局

資料は2ページです。まず、路線バスについてです。平成26年度は、1ヶ月平均、5路線計で33,387人、27年度は36,079人、28年度は35,159人の利用があり、微増微減を繰り返しています。29年度は、年間413,732人、1ヶ月平均34,478人の利用がありました。昨年度比で1.9%の減少でした。路線別では、「温泉片山津線」が14.6%、「吉崎線」が22.0%の増加でした。「温泉山中線」、「山代大聖寺線」、「温泉大聖寺線」は、減少しました。特に、「山代大聖寺線」は、高校生の通学手段として運行していますが、2割近く減少しました。

利用促進として、平成27年3月より「温泉大聖寺線」の新設、「温泉片山津線」と「吉崎線」の延伸をしました。「吉崎線」については、同時期に土日祝の運行も開始しました。また、28年4月より、「山代大聖寺線」以外の4路線の医療センターへの乗り入れを開始しました。29年4月からは、利用が多い「温泉片山津線」を増便、「温泉大聖寺線」の利用が少ない時間帯の便を減便しました。今年度については、地元要望を受けて、「温泉片山津線」に「湯の谷橋」停留所を新設、「吉崎線」の一部の便を黒瀬町と保賀町経由にしました。

続いて、「キャンパス動橋・橋立循環線」についてです。7:10発便と12:20発便は、加賀温泉駅から動橋、片山津、金明、橋立を經由して大聖寺へ行く便です。17:05発便と18:45発便は、その逆まわりです。平成27年度は、1ヶ月平均143人の利用、28年度は、医療センターが開院したにも関わらず、240人でした。通院利用が少なかったため、29年度より、高校生の通学に特化した運行としました。12:20発便を廃止し、部活動終了後に利用できる18:45発便を新設しました。これにより、29年度は1ヶ月平均493人と、昨年度の2倍になりました。大聖寺実業高校前に停留所を新設したことも、利用増加に繋がったと思います。通学利用中心のため、今年度より、極端に利用が少なかった日曜・祝日の運行を取り止めました。

続いて、乗合タクシーについてです。実証運行中の平成27年度は、3エリア計で1ヶ月平均295人、28年度は872人の利用がありました。29年度は、年間13,712人、1ヶ月平均1,143人の利用があり、昨年度比で31.1%の増加でした。特に、エリア2は3.14倍の伸びでした。また、毎年、利便性向上のためダイヤや共通エリアの見直しを行っています。今年度についても、共通エリアの拡大や乗車券の見直しをしました。

副会長

昨年度と比較して、加賀温泉バス(株)が運行する路線バスについては、路線ごとに増減、「キャンパス動橋・橋立循環線」は、通学利用に特化した運行にしたことで2倍に増加、乗合タクシーも運行の見直しや周知等により増加しました。

委員の皆さまからのご質問、ご意見などはどうでしょうか。

委員

キャンバスは、今年1、2月の大雪の影響で、合計13日運休しました。対応として、前日の16時頃に、学校や関係機関等に、運行または運休の旨を通知しました。今回の大雪で、安心して利用してもらうためには、様々なことを事前に告知しなければならないと学びました。

副会長

今年、1月から2月にかけて未曾有の大雪に見舞われました。JR等では、災害・天災があっ

た場合、事前に運行・運休を決定し告知していますが、キャンパスにおいても、今回は、同様の配慮をしていただきました。

委員

先日、連合の会議で、山中方面に住んでいる方が大聖寺の高校へ通学する手段がないため、小松方面の高校へ通っていると聞きました。山中方面と大聖寺方面とを繋ぐ路線バスの増便を検討していただけたらと思います。

事務局

「山代大聖寺線」をはじめ、通学手段となる路線のダイヤは、大聖寺高校及び大聖寺実業高校の校長や事業者との協議の上、設定しています。現状、通学に対応したダイヤ設定であると認識しています。少子化により、大聖寺高校、大聖寺実業高校ともに定員が減少傾向にあります。それに伴い、大聖寺方面の高校へ通う学生も減少しているのではないかと思います。

来年度のダイヤ編成についても、両高校や事業者と協議をしながら検討したいと思います。

副会長

大聖寺方面への通学の利便性向上については、以前より協議しており、「キャンパス動橋・橋立循環線」の経路変更等により、徐々に改善しています。しかし、車両の大きさ等により、実現に至っていない部分もありますので、今後の課題にしたいと思います。

委員

乗合タクシーについて、エリア2の利用者が大幅に増加していますが、要因は何ですか？

事務局

エリア2については、平成27、28年度の利用が非常に少なかったため、高齢者施設や高齢者の集まりに Outreach、利用促進パンフレット等を用いた利用促進に努めました。エリア2内でも、徐々に小規模多機能施設等が増えているので、これら施設を重点的に回りました。その結果、ロコミ等により利用が増えたのではないかと思います。今後も継続していきたいと思います。

【議事(1) 平成29年度 加賀市地域公共交通活性化・再生協議会事業報告及び歳入歳出決算について】

【議事(2) 平成30年度 加賀市地域公共交通活性化・再生協議会事業計画及び歳入歳出予算について】

副会長

それでは議事に入ります。1番目の議事は、この協議会の平成29年度の事業報告と決算について、2番目の議事は、この協議会の30年度に実施する事業計画と予算についてです。

それでは、事務局から、まとめて説明してください。

事務局

資料は4ページです。平成29年度の事業報告についてです。昨年度は4事業実施しました。

1つ目は、バス教室の実施です。庄小学校の3年生を対象とし、1回目の教室では、路線バスの乗り方、車内でのマナー、車両の仕組み等を学んでもらい、2回目の教室では、実際に路線バス

に乗車し運賃の支払い等を体験してもらいました。

2 つ目は、バス停のベンチ整備です。利用者の待合環境向上のため、加賀温泉駅バスターミナルにベンチ 2 基を設置しました。

3 つ目は、乗合タクシー利用促進事業です。老朽化した車両マグネットシールの更新や、利用促進ポスター・チラシの配布を行いました。

4 つ目は、公共交通利用促進パンフレットの作成です。作成後、市内全世帯に配布しました。

続いて、歳入歳出決算についてです。歳入として、繰越金 270,791 円、加賀市及び加賀温泉バス(株)負担金 882,000 円、石川県補助金 624,000 円、預金利子 1 円で、計 1,776,792 円でした。歳出については、事業費のみで計 1,647,293 円でした。歳入決算額から歳出決算額を差し引いた 129,499 円は翌年度に繰り越します。監査書は 9 ページに添付しています。

続いて、平成 30 年度の事業計画についてです。今年度は、3 事業の実施を予定しています。1 つ目は、バス教室の実施です。河南小学校の児童を対象に、路線バスの乗り方や車内でのマナーを学び、また、路線バスで身近なお店へ出かける体験教室を実施します。なお、1 回目の教室については、実施済みです。

2 つ目は、公共交通利用促進パンフレットの作成です。市内の公共交通の運行経路やダイヤなどを掲載したパンフレットを作成し、全世帯や高校等への配付を予定しています。

3 つ目は、ホーム照明 LED 化工事です。老朽化した山中温泉バスターミナルホームの照明を LED に整備します。

続いて、歳入歳出予算についてです。歳入として、加賀市及び加賀温泉バス(株)負担金 1,084,000 円、石川県補助金 798,000 円、預金利子 1,000 円、前年度繰越金 129,000 円で、計 2,012,000 円を予定しています。次に、歳出として、事業費 1,897,000 円、予備費 115,000 円で、計 2,012,000 円を予定しています。

副会長

例年実施しているバス教室の開催、公共交通利用促進パンフレットの作成は、今年度も引き続き実施することとしています。また、バス停整備として、山中温泉バスターミナルの照明を LED 化することとしています。

委員の皆さまからのご質問、ご意見などはいかがでしょうか。

委員

人口減少に伴い、路線バス利用者は、年々減少しています。子どものうちから路線バスに親しむことができるバス教室は、利用者を増やすための理想的な方策だと思えます。実施にあたっては、私たちも協力したいと思います。

委員

昨年度は、加賀温泉駅バスターミナルにベンチを設置していただき、今年度は、山中温泉バスターミナルの照明を LED に整備していただけるということで、ありがとうございます。

ベンチについては、北陸新幹線加賀温泉駅開業時に、移動が必要となるかもしれませんが、その際は改めて相談します。

副会長

それでは、「平成 29 年度 加賀市地域公共交通活性化・再生協議会事業報告及び歳入歳出決算」及び「平成 30 年度 加賀市地域公共交通活性化・再生協議会事業計画及び歳入歳出予算」については、これで承認することよろしいですか。

特にご異議はないようですので承認することとします。

【議事 3 「加賀市地域内フィーダー系統確保維持計画」(案)について】

副会長

それでは議事の 3 番目、「加賀市地域内フィーダー系統確保維持計画」(案)についてです。事務局から説明してください。

事務局

資料は 12 ページです。地域内フィーダー系統確保維持計画について、順に説明します。まず、計画の名称は、「加賀市地域内フィーダー系統確保維持計画」です。平成 31 年度から 33 年度までの 3 カ年の計画です。

続いて、「1. 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性」についてです。路線バスにおいては、「温泉山中線」が地域間幹線に位置づけられており、それ以外の路線の 4 系統がフィーダー系統として運行しています。キャンバスにおいては、「小松空港線」のみが対象となっています。

「幹線ネットワーク」と「面的ネットワーク」を組み合わせることにより、車を運転できない高齢者や中・高校生の移動手段を確保しており、今後も、維持していく必要があると考えます。

続いて、「2. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果」についてです。1 便当たりの乗車人数を目標として設定しています。事業の効果については、様々な交通手段が結節することで、効果的・効率的な地域交通体系を実現でき、さらには、人の流れが活発になることで地域活性化の効果も期待できます。

「3. 2. の目標を達成するために行う事業及びその実施主体」については、実施主体をこの協議会とし、今年度、実施予定の 3 事業を記載しています。

「4. 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運行予定者」については、表 1 に記載しています。国庫補助対象の期間は、平成 31 年度から 33 年度までの 3 カ年です。なお、国の年度については、10 月始まりの翌年 9 月までとなっています。

続いて、「5. 地域公共交通確保維持事業に要する費用の負担者」についてです。加賀温泉バス(株)が運行する系統については、市と加賀温泉バス(株)で取り決めた算定方法により運行補助を、また実証運行の系統は、経常赤字分を市が負担しています。キャンバスについては、経常赤字分を企画事業者が負担しています。

「6. 補助金の交付を受けようとする補助対象事業者の名称」については、加賀温泉バス(株)と日本海観光バス(株)の 2 社を記載しています。

「7. 外客来訪促進計画との整合性」については、本市には当該計画がないため、該当なしとしています。

「8. 協議会の開催状況と主な議論」については、本日の協議会での協議の旨を記載しています。

続いて、「9. 利用者等の意見の反映状況」についてです。市民の方々の意見等を踏まえながら市内の公共交通を見直し、「K A G A あんしんネット」を構築したことを記載しています。また、

利用者の意見を反映した運行の見直しや、利用促進事業の実施についても記載しています。

「10. 協議会メンバーの構成員」については、皆さまの肩書きを記載しています。

副会長

国からの補助金の活用については、幹線である「温泉山中線」は県の協議会で、それ以外のフィーダー系統は加賀市の協議会でというふうに県と市で分担しています。

委員の皆さまからのご質問、ご意見などはどうでしょうか。

委員

「キャンパス空港線」の事業の目標については、北陸新幹線金沢開業により航空機利用が減少していることから、下方修正しました。

副会長

事業の目標は、昨年度の実績に応じて設定しています。単に高みを目指すのではなく、現状を踏まえた上で、利便性を向上させ、それが利用増加に繋がることで、さらに高い目標設定ができればと思います。新幹線と航空機の競合については、ちょうど空港利用者の減少が収まってきているので、今後の対応で、より高い目標を設定できればと思います。

委員

2 ページにも 1 便あたりの乗車人数の記載があれば、実績に沿って目標を設定されたことが分かりやすいと思います。また、「キャンパス空港線」の実績が記載されていないので、記載をお願いしたいです。

事務局

来年度に向けて、対応したいと思います。

副会長

それでは、国庫補助に伴う「加賀市地域内フィーダー系統確保維持計画」は、これで承認することよろしいですか。

特に異議はないようですので承認することとします。

【議事(4) 地域公共交通の利用促進策(案)について】

副会長

それでは議事の 4 番目、地域公共交通の利用促進策(案)についてです。

事務局から説明してください。

事務局

資料は 18 ページです。地域公共交通の利用促進策(案)として、6 事業を掲げています。

1 つ目は、包括連携協定を締結する金沢学院大学との連携事業です。大学側から、公共交通の活性化について、共同で取り組みができないかとの申し入れを受けています。具体的な事業内容

については、今後、担当教員及び学生と協議し、実施に向けて検討を進めていきたいと思ひます。

2 つ目は、前回会議でも提案した「キャンパス動橋・橋立循環線」の湖北地区への乗り入れについてです。湖北地区区長会の協力を得て、今年度の状況を把握しました。大聖寺方面へ通学している高校生が各町におり、通学手段は、キャンバス利用もありますが、大半が保護者による送迎でした。しかし、今後の利用の可能性としては、時間帯が合えば利用するとの回答が多くありました。これらのことを踏まえ、(株)まちづくり加賀、区長会との協議を進めていきたいと思ひます。ある程度の結論が出ましたら、改めて報告したいと思ひます。

3 つ目は、乗合タクシーへの配車システムの導入検討についてです。現状、乗合タクシーの予約方法は電話となっています。受託事業者である加賀第一交通(株)では、予約状況をまとめ、予約を締め切った後、運行経路を決めています。経路検討に時間を要するため、始発の1時間前に予約を締め切っています。様々な事業者が、デマンドタクシーの配車システムの研究や販売をしていますので、このようなシステムの導入を検討したいと思ひます。また、最近では、高齢者の間でもスマートフォンが普及していると聞いていますので、スマートフォンを使って予約ができれば、格段に利便性が向上すると思ひます。

4 つ目は、「のりあい号」利用者の会の開催についてです。平成 28 年度から実施しており、事業者も含めて、様々な意見を頂戴しています。廣田氏をオブザーバーとして、旧勅使・東谷口乗合タクシーの問題点や課題点も踏まえて、利便性向上を図っています。様々な利用者からの意見を運行の見直しに反映させるため、継続して実施したいと思ひます。

5 つ目は、高齢者の運転免許証自主返納支援への取り組みについてです。連日、高齢者の自動車事故が報道されています。自主返納に繋げるための代替手段として、安全協会より路線バスや乗合タクシーの回数券を支給しています。今年度、乗合タクシーの回数券を 11 枚綴りから 12 枚綴りに変更しました。今後は、周知等を図り自主返納に繋げていきたいと思ひます。

6 つ目は、「のりあい号」おでかけ相談会の開催についてです。先ほどのエリア 2 の増加要因でも説明しましたが、継続的に高齢者が集まる場へ出向き、利用方法の説明や便の選び方の相談に応じることで、利用促進に繋がればと思ひます。

副会長

金沢学院大学と連携した利用促進事業は、こちらから学生にフィールドを提供し、学生の知見をいただくというものです。すでに、加賀温泉郷マラソンや健康増進事業等では、提案をいただいています。公共交通については、今後、具体的な提案をいただくとのことでした。

それでは、委員の皆さまからのご質問、ご意見などはどうでしょうか。

委員

自主返納支援の特典として、橋立や金明地区の方々にキャンバスの回数券を選んでいただいていた。しかし、今年度からは、取扱いをしていないと聞きました。私たちは、この制度に協力したいと思ひますし、キャンバスの回数券を選びたい方もいますので、配慮いただければと思ひます。

委員

高齢者の運転免許証自主返納については、最近、認知が進んでおり、自主返納者は増加傾向に

あります。今後も代替手段の確保として、公共交通の回数券の提供等を進めていただけると、自主返納を検討されている方も踏み切りやすいのではないかと思います。促進方法を考えていただければと思います。

事務局

本日いただいた意見等は、担当課にお伝えし、今後、対応を検討したいと思います。

委員

昨年、私が住む地区で、自主返納支援の制度を知らず、特典を受けられなかった方がいました。制度が浸透していないため、相談をしても人により様々な回答が返ってきます。問い合わせ先も浸透していません。窓口を定めて、周知して欲しいと思います。

事務局

窓口を定めて、そこで全て解決できるようにならないか、担当課に伝えたいと思います。

副会長

窓口の一元化という選択肢もありますが、無理に一元化すると窓口が分からなくなってしまう可能性もあります。ここに聞けば分かるのではないかとと思われる場所においては、情報共有をし、手続きの案内等をして欲しいと思います。

委員

路線バスの利用促進については、取り組みを進めて欲しいと思います。子どもも家族と車で移動する機会が多いと思うので、路線バスに親しみを持ってもらうため、特に、バス教室のような取り組みを進めて欲しいです。

副会長

いただいた意見を踏まえて、利用促進策を進めて欲しいと思います。

その他、事務局から何かありますか。委員の皆さまからのご質問、ご意見などはどうでしょうか。では、進行を事務局に戻します。

6 閉会

事務局

長時間に渡り、ご審議ありがとうございました。本日いただきましたご意見・ご指摘については、会議の運営や今後の政策に活かしていきたいと思います。

本日の会議はこれをもって終了いたします。